４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.592-593
一年生も斜面上部の間伐に挑戦しています

【定例活動報告】 緑のダムとSTEAM

現在活動に参加している中学生は私が勤務する学芸大の附属中学の生徒が主体となっています。加えて地元の中学生や、まだイベント的ですが小金井市立の中学生も年３回ほど参加する機会を作っています。報道でお聞きしている方も多いと思いますが学校をめぐる情勢はめまぐるしく変化しており、我々の世代は部活が学校の中心のような存在でしたが、今は部活は教員の仕事ではない、と言われ始めております。緑のダムの活動に参加する中学生もほんの数年前までは「地球環境部」という部活動をベースにしていましたが、現在の中学生は部活動ではなく、大学のプロジェクトであるEXPLAYGROUND事業に自主的に参加している生徒です。よって附属学校の生徒でなくても参加できます。今後は小金井市教育委員会と連携しつ

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

つ、地域部活動のベースとなるべく調整を続けています。そのような活動を通して、子どもたちはこのEXPLAYGROUDと緑のダム北相模の両方に属しながら活動する、と言うのが当面の形になっています。EXPLAYGROUNDにはラボというさらに小さい単位があり、子どもたちはGREEN TECH ENGINEER LABというラボに属しています。今の教育の課題、目指すものの一つにSTEAM教育というものがあります。STEAMとは「科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術・リベラルアーツ（Arts）、数学（Mathematics）の5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念。知る（探究）とつくる（創造）のサイクルを生み出す、分野横断的な学び」（STEAM JAPANより引用）のことで、さらに自身の興味関心をベースに社会課題に取り組むことを求められています。まさに本会の活動そのものであり、本会の３つの活動の柱に新しく加えたい教育としての視点と考えています。
GREEN TECH ENGINEER LABという名前ですが、Gは緑、つまり森の活動で、そこにScienceとMathematicsの要素を入れ、緑のダムの活動そのものをArtsとすれば、GTEとはSTEAMのこと、であるといえます。

宮村　連理（本会、副理事長）

【定例活動報告】知足の森

私が参加した日は、お寺の裏の森で間伐を行いました。お昼休憩も取りつつ、午前と午後で取り組みました。二つのグループに分かれ、私のいたグループでは午前と午後で1本ずつ木を切っていきました。

間伐をしたことについて振り返ると、間伐に必要な荷物を運ぶことや、ロープを使い、木を倒すことは一人で行うことができず、皆で力を合わせてそれらを行いました。皆で協力をしていくなかで、他者がいることのありがたみを感じることができました。大袈裟かもしれませんが、他者がいて生きていくことができる、という日常に埋もれてしまった大切なことを非日常的な活動を通じて再発見できたことは私にとって興味深いものでした。この活動では毎回、中学生の皆さんを含め多くの人に助けられており、私自身まだまだ至らぬところがあるのですが、助けてくださる皆さんに甘んじずに今後も活動に参加して様々な気付きを発見できればなと思いました。　川瀬　大輝　(東京農工大学工学部3年)

この度ご縁があり、緑のダム北相模のみなさんと森にどんな植物がどれくらいあるのかを調べる植生調査を行いました。今回は、調査地にロープで20m×20mの区画を作り、その中に植物がどれだけあるかを調べるコドラート法という方法に挑戦しました。調査は合計2回、春（4月頭）と夏（9月頭）に実施しました。

今回は知足の森（地点Ａ）と、最近は人があまり立ち入っていない森（地点Ｂ）で比較調査を行いました。地点Ｂは下草が多く沢沿いということもありロープを張って区画を作るだけで一苦労。区画を作ったあとは樹木図鑑を手に1種1種名前を調べていきました。はじめは図鑑検索に慣れない様子でしたが、だんだんと特徴を見つけられるようになりどんどん同定を進めていくチームもありました。

調査の結果、4月は地点Ａで19種、地点Ｂで29種の植物が観察され、9月の調査では地点Ａで25種、地点Ｂで32種の植物が観察されました。どちらの地点でも4月～9月にかけて下草の高さはあまり変わっておらず、シカなどの野生動物が、植物が大きくなる前に食べているのかもしれませんね。設置されているカメラの映像と合わせて検証したりすることで森にやってくる生き物たちの行動や対策を考えることもできそうです。今回の調査は非常に地道で大変でしたが、活動後に「植物もおもしろいね」と嬉しい言葉もいただきました。いつも活動している場所の植物の名前を知ることで、活動がもっと楽しくなるといいなと思います。

白濱　真友（森林インストラクター）

桜井尚武の森のコラム

「コウヤボウキ (*Pertya scandens*)とナガバノコウヤボウキ (*Pertya glabrescens*)」

図1　コウヤボウキ

20211023　雷電山　青梅丘陵

図2　コウヤボウキ

20211023　雷電山　青梅丘陵

図3　ナガバノコウヤボウキ

20230723　麻生山　青梅丘陵

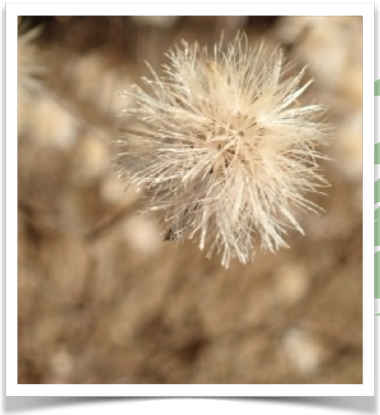

図4　コウヤボウキの綿毛

20230209　科博つくば植物園

キク科の落葉低木で比較的乾いた陽当りのある所に生える樹高は精々1mていどの灌木です（図1）。コウヤボウキの葉は薄い広菱形の広卵形で互生し長さ2cmから3cm位です。ナガバノコウヤボウキの葉も薄質で長さは3㎝から5㎝と大きく幅は1cm程度の披針形で細長いのが特徴です。どちらの葉にも三行脈が目立ちます。コウヤボウキの枝／幹や葉には毛が多くあります。花はキク科のアザミ類に似た形状で菊の仲間と納得できます。コウヤボウキの花は主に一年目の幹や枝の先に単生、あるいは数個が群生します（図2）。2年目の枝（幹）には短葉が出ますが花は点けません。ナガバノコウヤボウキは今年発生した枝（当年枝）には花をつけず、2年目の枝先に着いてその基部を5～6枚の披針形の葉が輪生して取り巻きます（図3）。本種にはほとんど毛がありません。両者の枝／幹の寿命は共に2年で樹木というものの儚いものです。花期は9～10月という説明が多いですが、年を越しても結構頻繁にみられます。青梅丘陵界隈では晩秋11月から冬季にかけてみられ、花の少ない寒季の貴重な役者です。花が終わると綿毛を発達させて、これもキク科の特徴を示しています（図4）。

コウヤボウキの分布は関東以西、四国、九州、中国、ナガバノコウヤボウキの分布は宮城県以南の本州、四国、九州だそうです。これらの山地帯相当のやや乾性で陽当りのある歩道沿いや林縁が好適な生育地です。

名前の由来は、かつて高野山では宗教上の理由で果実や竹の栽培が禁じられていたため、竹箒の代わりにコウヤボウキの枝（幹）を束ねて使ったことによるとされています。竹箒の代用にコウヤボウキが本当に実用になったのかどうかは定かではありません。しかし、一方で実際に正倉院御物にコウヤボウキを束ねて作られた玉箒というものがあるそうです。万葉集にも謳われた長い歴史を持つこの玉箒は蚕神を祭る蚕室を掃き清める儀式に使われたといいます。それだけの価値のある機能をコウヤボウキに見出した先人の力を改めて学びたいと思います。現代でも皇室では養蚕を行うことが大事な仕事とされていますのでそこでは玉箒が活躍しているかもしれません。

桜井　尚武（本会、会員）

【活動報告】森づくり以外のイベント、コンテスト応募状況のご報告

ここ数ヶ月のイベントやコンテストに関するご報告です。夏休みの体験学校後に、小金井市環境政策課主催で、市内で伐採された木を使ったベンチづくりの支援を行いました。スタッフは普段森に来ている高校生、大学生で運営し、定員の３倍にもなる申し込みがあり、市の観光協会ウェブ（https://koganei-kanko.jp/maron/archives/59283）などでも紹介されました。他にも環境省30by30関係で、生態系調査の専門家のご支援を頂きながら、知足の森の針葉樹林と広葉樹林に１０ヶ所ずつ昆虫トラップを設置しての調査も白濱さんの植生調査と並行して行い、10月いっぱい、継続的にモニタリングしています。また関連して環境省の環境教育・ESD実践動画100選に３分動画をエントリしました。こちらはDBJというGTEラボのさらに小さい単位の作業グループの高校生が作成した動画です。文化祭を挟んでの〆切でしたがよくできた動画になっています。「GTEラボは自分の得意な分野から森に関われる」というナレが印象的でした。まさにSTEAMのことを言っているのだと思います。選定されると期待して結果を待っています。他にも毎日新聞の毎日地球未来賞の学生の部にもエントリしています。

中学生を中心とするチームは、大学の学祭の日に合わせた木工ワークショップ、12月のエコプロダクツ展、年明けには公民館の自主講座２本に向けて準備を進めています。情報解禁となりましたら本会SNS等でも告知していきます。

宮村　連理（本会、副理事長）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　patagonia